



# 令和3年8月

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-104

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

## 戦後76年 「平和」について語り合うこと

蒸し蒸しと暑い日が続きます。夏ならではの雨の日散歩や水遊びを楽しんでいます。泥水、色水、泡遊び・・・暑い夏を心地よく、自由に楽しく過ごすことは免疫力も上がるはずです。乳児組も直ぐにタライの周りに集まり、バチャバチャと両手を入れてたたいています。そして、集中して流れる水を掴もうとしてみたり、水をすくって容器に入れたり出したりを繰り返しています。初めての水鉄砲や水風船遊びの2歳さんたち、目をキラキラさせて水の不思議さ、心地良さを五感で感じています。探究心に燃えて、全力で遊ぶ姿はカッコいいです。遊びは「自分育て」目と手先と全身を集中させて、思考を繰り返しながら発明して遊ぶ。満足して遊んだ日の午睡時はとても静かです。8月熱中症予防をしながら遊びたいと思います。

新型コロナウイルスの感染が止まりません。既に感染のステージが変わり、市中感染、家庭内感染が拡大している状況だと言われています。園では、換気をし、衛生消毒を行っています。保育園の特性として三密の密集、密接は防げず、お子さんにとって感染リスクはあります。安全な場所とは申せません。お子さんの命を守る判断は、ご家庭でお願いいたします。保育園は、こどもの健やかな育ちや就労を支えるための大切なインフラ事業であり、園がクラスターにならない限りは通常保育です。その点をご安心下さい。ご家族でPCR検査を受ける場合は、必ず園へ連絡をお願いいたします。陽性者が出た場合は、北区保育課、北区保健所の指示のもとに対応いたします。その都度、大人の私たちが最善の方法を考えながら協力して一緒に乗り越えていきましょう。保護者のご理解が保育者を支えて下さっています。いつも有り難うございます。

さて、今年には戦後76年となります。毎年、8月に子ども達と読む本があります。「8月6日のこと」文：中川ひろたか氏、絵：長谷川義史氏の本です。保育士であり絵本作家の中川氏の実話に基づいて書かれています。広島原爆の絵本です。16歳だったお母さんは兄であり兵隊であった叔父にとときおにぎり差し入れに広島へ行っていたのですが、その日、穏やかだった瀬戸内海が一瞬に原子爆弾投下で地獄となりました。絵本でありながら、原爆の恐ろしさ、戦争の惨状が伝わってきます。何回読んでも息を呑む場面です。黒焦げの死体の山を見ながら兄を探して歩くお母さん、この場面はいつも子ども達がしーんとなる場面です。

戦争という大きな犠牲の上での今の暮らしがあると思うと、私は、平和の大切さや命の尊さを私たちの未来である子どもたちと語り合うことは、先に生まれてきた大人の責任だと感じるようになりました。戦争体験者でなくても平和の大切さは日々感じるからです。そう、平和を語ることは、抽象的なことではなく自分や家族の生活を考えることであり、子どもを産み育てることは、未来の平和とつなげていかなければならないのです。今、起きているアフガニスタンでの紛争を思うと私たちが社会や政治に無関心では平和を守れないと痛感します。そして、被爆国の私たちだからこそ、原子力の利用をどう選択していくのか、「安心」「安全」とは何か・・・保育者として考えていきたいと思っています。

さて、夏祭りなど地域でのお祭りの中止が続いています。今年も年長さんたちがテーマを決めて素敵な御神輿を作っています。大きなお祭りは出来ませんが、子どもたちの心に残る夏の思い出、御神輿担ぎと盆踊りを楽しみたいと思います。1階の乳児組さんも楽しめるように練り歩きます。プロセスの中で、仲間と関わり成長していく姿をいつも感じます。コドモンで動画配信をしています。どうぞお楽しみに。